

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 10日

事業所名 ほしぞら

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			利用者が多い時には、活動室を分けて活動している。	
	2 職員の配置数は適切である	8			スタッフ間で連携できる体制をとっている。	
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		1	月2回のミーティングや朝礼・昼礼・夕礼・モニタリングなどで情報共有し、目標設定や振り返りを行っている。	
	4 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		1	保護者等向け評価表の集計結果を職員全員に周知し、業務改善につなげている。またイベント後にアンケートを実施しご意見やご要望を伺い改善につなげる努力をしている。	
	5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		2	保護者等向け評価結果及び、自己評価結果をホームページにて公開している。	全職員がHPに公開していることを周知していないため共有する
	6 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8			研修案内を職員全員に共有し、研修の機会を確保している。	
適切な支援の提供	7 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		1	アセスメントをもとに利用者と保護者のニーズや課題を検討し、計画書を作成している。	
	8 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			絵カードやホワイトボードを使って視覚的に理解できるよう支援している。	
	9 活動プログラムの立案をチームで行っている	8			定期的に活動会議を行い、活動内容を決めている。	
	10 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1		活動会議で決めた内容を活動予定表として利用者に配布している。	固定化している時もあるので、新しい活動を取り入れていきたい。
	11 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		レベルに合わせたクラス分けをし身辺自立や就労に移行できる支援内容を提供している。	
	12 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8				
	13 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			毎日朝礼・昼礼などを行い支援内容や活動内容を共有している。	朝礼で活動内容がはっきり決まっていない時がある。朝礼で共有することにより改善点が見つかり、午後の支援までに見直しができるので朝礼時までは活動内容・支援内容を徹底して決めていきたい。
	14 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			毎日、夕礼会を行い支援報告や活動の振り返りなどを話し、次につなげている。	
	15 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1			日々の支援に関しては連絡帳に記載している。活動については、夕礼会で振り返りをし反省点など記録をとっている。
16 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8					
関係機関や保護者との連携	17 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		2		
	18 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		1	送迎時に学校での様子や事業所での様子を必要に応じて共有している。下校時刻については変更があった場合、連絡をいただいている。	
	19 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	2	保育園・学校が作成している「あゆみ」の会に参加したり、送迎時などに情報共有は行っている。	

	20	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	1	2		必要であれば情報共有する体制を整えている。	
	21	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	1		必要時には福祉課・基幹相談支援センターに相談し、適切な研修の案内をもらっている。	
	22	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	1		コロナ禍のため、交流する機会がない。	
	23	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		1		子ども部会やワーキンググループの話し合いには毎回参加している。その他、協議会には代表者が参加するようにしている。	
	24	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8				毎月、家庭連携・事業所内相談支援時に支援内容や困りごとについて話ができている。	
保護者への説明責任等	25	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		2		契約時になるべく分かりやすいように、説明している。	
	26	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8				年2回保護者会を行っている。また要望があれば、事業所に来ていただきお話をする機会を作っている。	
	27	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8				年2回の保護者会や、イベント時など保護者同士の交流を図っている。	前回のアンケート結果に「事前に内容がわかっていたら参加したかった」との要望があった為、事前に次第を配布し興味を持っていた保護者が参加できるように改善した。
	28	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8				契約時に相談・苦情窓口の説明をしている。保護者から相談・苦情があった場合は担当者が迅速に対応し、スタッフ間で共有している。	
	29	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8				毎月、通信を作成し保護者に配布している。	写真が多いのも喜ばれると思うが、その時の様子を文章も入れて伝えた方がより伝わるのではないかと。以前は活動内容の説明など文章も入れていたので、共有し改善していく。
	30	個人情報に十分注意している	8					十分注意しているが、徹底のため再度職員に周知を行った。
	31	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8					
	32	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		1		事業所の夏祭りに、近所の方を招待した。今後も続けていきたい。	
非常時の対応	33	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8				1年に1回活動にて消防署での訓練を受けている。その他活動にて年に3回程度、避難経路確認や避難訓練を行っている。	
	34	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8				虐待防止については、全職員必ず毎年内部・外部などで研修を受けている。	
	35	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8				やむを得ず身体拘束を行う可能性がある場合は、保護者に説明をし同意書に署名をいただき計画書に記載するようにしている。	全職員に周知を行う。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		2		保護者からの情報をもとに、アレルギー対象児の一覧表を作成し共有している。	
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		1		ヒヤリハットや事故報告は同一法人内で共有し気を付けている。	